

資料 1

齊藤農場GAPの取り組み



齊藤農場
代表 齊藤 知秀



齊藤農場について

所属：JA富里市

品目：こまつな

場所：千葉県富里市

栽培規模：ハウス 60棟

露地 4圃場

面積 4.4ha

平均サイクル：6作/年（ハウス）

GAPの取り組み：

2013年JGAP認証取得

2017年ASIAGAP ver.1認証取得

2019年ASIAGAP ver.2.1認証取得

過去の栽培品目歴：

～2003年 スイカ、ニンジン

ダイコン、トマト

2004年～ こまつな栽培開始

富里市について



人口：50,124人（平成31年2月28日）

面積：53,88km²

耕地面積：170,211ha（平成27年農業センサス）

特産品（農産物）：ニンジン（冬ニンジン出荷量全国1位）

スイカ（八街市とともに県内2大産地）

立地：都心部から約50km、成田国際空港まで10km以内と

物流のアクセスも良好



GAPに取り組むきっかけ

これからはGAPかなと思った。



3

実践前のGAPの印象

- ・ 自分農場とはかけ離れた事をやらなければいけない。
- ・ 新しい施設を作らないといけない。
- ・ GAP実践農場を見学し自分には無理だと思った。
- ・ GAP基準を守らないといけないと思った。
- ・ パソコンができないと取り組めないのではと不安があった。



4

実践前の農場



5

肥料置き場はとくに固定の場所はなく空いている場所に置くのが当たり前。農薬保管庫はあるが、安売り時に大量購入するため入りきれずいろんな場所に置いてある状態。



6



倉庫には保管庫に入りいなかった大量の農薬や、もう何年も使用していない端材や機械や道具がところせましと詰め込まれている状況。



7

パッケージ場には趣味の道具や燃料などパッケージには関係ないものまで置いてある。物の位置も決めておらず適当に置いている状態。



8



パッケージ場での作業では特に服装のルールはなく髪の毛もそのまま、素手で小松菜を取り扱いパックしている状態。



9



売上計算のために出荷の記録はあったが、農薬散布記録やその他記録及び帳票などは一切取っていない状態だった。記録ではなく記憶でなんとかしていた。



10

実践後の農場



農薬保管庫は経営規模に合わせて、農薬を入りきれの大きさに変更。大量購入は控え在庫管理を行い必要最小限の在庫量にした。





肥料置き場は固定の場所を決めて定位置で保管し使用毎に在庫管理している。堆肥場もコンクリート床の屋根付きで汚水が外に流れるリスクを低減。



13



畑のごみ一度大掃除し片付け、日頃から落ちているごみを回収してきれいにするように農場全体で心がけるようにしている。



14



パッケージ場での服装をルール化し（エプロン、マスク、バンダナ、手袋）実践するようにした。

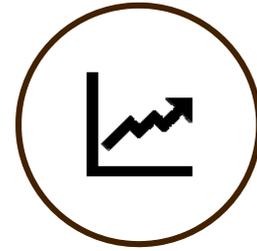
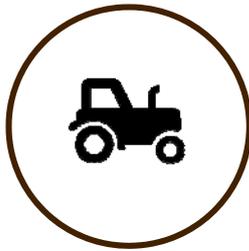
15



今までなかった記録類を整備（手書き）し、農場経営の基本的な情報である帳票類も作成した。従業員にカイゼンの対策を教えるためにルールやマニュアル、掲示物を作成し教育。

16

農場内の効果



コスト面の効果

- ・ 土壌診断結果を活用し、肥料代を約25%低減。
- ・ 農薬散布回数や方法の変更により農薬代を60%低減。
- ・ 包装資材等の見直し等により資材代を30%低減。

品質面の効果

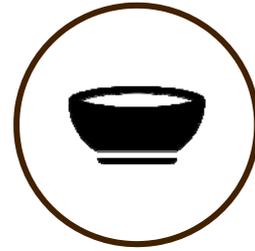
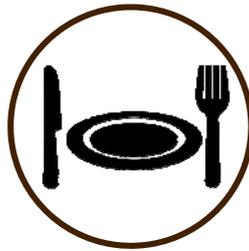
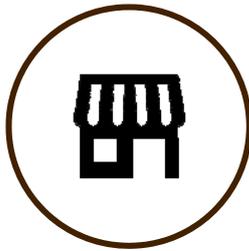
- ・ 出荷先からのクレーム0（2018年）
- ・ 農場全体がキレイになった

経営面での効果

- ・ モノがすぐに出せるようになり作業効率がUP



販売への効果



GAPマーク使用商品での販売の例
株式会社イトーヨーカ堂様
セブンファーム富里
顔が見える野菜

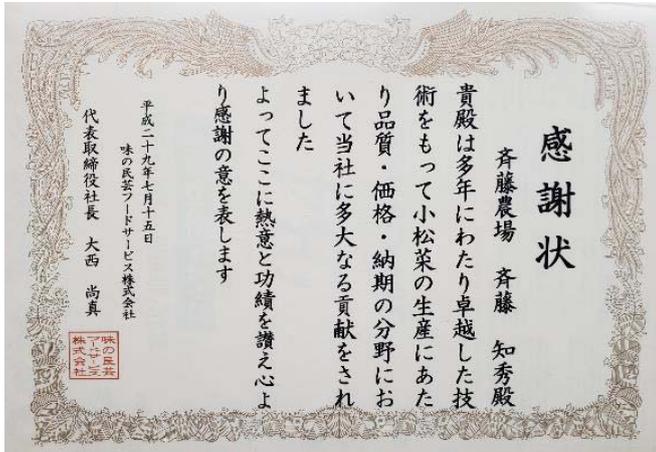


・(株)イトーヨーカ堂様のPBにてGAPマーク使用の商品を日量で最大約7500パック出荷



GAP認証商品での販売の例

味の民芸フードサービス株式会社様
各種うどんの具材、一品料理で使用



- GAP認証の小松菜を優先的に使用いただいている。
- 週間で約1トン出荷
- GAPの取り組みが評価され表彰して頂きました。



21

GAPをやり続けられているポイント

GAPを実践する事で何かしらの効果が出ていると気づいた時、続けた方が良いのではと思った。

- 日頃から片付けしているので販売先の視察の際、農場のキレイさを褒められ良い印象のまま帰ってもらえた。
- 資料、記録があるため悪天候の場合でも写真や資料を見せて商談できるようになった。
- 収穫、出荷の記録を整備し、収穫量、販売量が数値化できるようになりJA販売課と次年の販売計画を数字で話せるようになった。
- 天気や気温の記録から生育予測し、前もって取引先に情報共有できるようになった。
- 年間の使用量が明確化したため、経費のムダが減った。
(肥料、資材、農薬)



22

大変だったこと

- ・ 実践開始当初の片付け
（期限切れ農薬、不必要な道具、資材、ゴミの廃棄）
- ・ 帳票類の整備（まったく無かったため）
- ・ 栽培記録、教育記録などの記録類を記入する
癖付けができるまで

結果的に、本当は必要なのにやっていたいなかった



23

6年GAPを実践して一言

数年前では自分には無関係だと思っていた事でも、GAPを実践して3年、5年経過し世の中の流れが変化した現代では当たり前になっていた。

今後、個人農家でも企業のような考え方をもち、農場運営を行うことが大切だと実感している。



24

心強い仲間たち



JA富里市 小松菜周年栽培グループ

ご清聴ありがとうございました。

